

平成28年3月7日

関係者各位

公益社団法人日本山岳協会 選手強化委員会

## 2016年 スポーツライミング国際競技会派遣選手選考基準 ～リード競技～

### 1 権限の所在及び決定の方法

国際競技会に派遣する日本代表選手を選考する最終的な権限は公益社団法人日本山岳協会にある。派遣選手の選考は、以下の基準に基づき、選手強化委員会が推薦し、常任理事会で承認することによって決定する。

### 2 派遣選手団の編成方針

- (1) 日本代表として十分な活躍が期待される選手の中から選考する。
- (2) オリンピック競技への追加を見据え、将来オリンピックで活躍が期待できる選手を選手強化委員会が推薦し、複数種目において国際経験を積ませるための選考ができる。
- (3) 行動規範を遵守し、日本山岳協会を代表するに相応しい選手・役員をもって編成する。

### 3 各国際大会における選手選考について

#### (1) 世界選手権大会（2016年9月 フランス）

##### ① 選考方針

単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として十分に活躍が期待できる選手の中から選考する。

##### ② 派遣可能選手(IFSC ルールより抜粋)

a. 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**（優勝種目で登録のこと）を派遣することができる。

\*2016年アジア選手権が8月初旬に開催された場合は、2015年アジア選手権優勝者はIFSC 枠を失う。

b. 上の者とは別に各種目について各国で**最大5名**までの選手を派遣することができる。

##### ③ 選考大会

a. リード日本選手権大会及びリードジャパンカップ

- b. IFSC リードワールドカップ
- c. 直近の世界選手権（世界選手権・世界ユース選手権）
- d. 直近の大陸別選手権（アジア選手権・アジアユース選手権）

④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手（IFSC 枠保持選手も含む）の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由（ワールドカップ等の上位大会、やむを得ない事由）があり、国内選考大会へ参加できない場合はその限りではない。
- b. 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権で優勝し、IFSC 枠保持選手として選考する。
- c. リード日本選手権大会及びリードジャパンカップそれぞれの**優勝者**を選考する。
- d. IFSC リードワールドカップ Briancon（フランス）大会終了時でのワールドカップランキング上位者から優先的に選考する（最大5名）。
- e. IFSC 保持選手の扱いは、選手方針、選考基準（上記 a. b. c. d）に照らし合わせたのちに決定する。

\* 選考大会の成績が選手方針・選考基準（準決勝進出以上）を満たしていない場合は代表としての選考を行わない可能性がある。

⑤ 選考方法

選考基準を満たしている選手を、選手方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、日本代表選手団の選考を行う。

⑥ 決定予定時期

2016年8月上旬

**(2) アジア選手権大会（2016年 中国）**

① 選考方針

次年の大会参加枠を獲得するため単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として活躍が期待できる選手の中から選考する。

② 派遣可能選手(IFSC ルールより抜粋)

各種目の各カテゴリーにおいて各国で**最大5名**までの選手を派遣することができる。

③ 選考大会

- a. リード日本選手権大会及びリードジャパンカップ

④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手（IFSC 枠保持選手も含む）の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由（ワールドカップ等の上位大会、やむを得ない事由）があり、国内選考大会へ参加できない場合はその限りではない。
  - b. リード日本選手権大会及びリードジャパンカップで上位の成績から選考する。
  - c. IFSC 保持選手の扱いは、選手方針、選考基準（上記 a. b）に照らし合わせたのちに決定する。
- \* 選考大会の成績が選考方針・選考基準（準決勝進出以上）を満たしていない場合は代表としての選考を行わない可能性がある。

#### ⑤ 選考方法

選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、日本代表選手団の選考を行う。

#### ⑥ 決定時期

リードジャパンカップの終了後

### (3) IFSC リードワールドカップ 2016

#### ① 選考方針

- a. 単種目での優勝を目指し、日本代表選手団として十分に活躍が期待できる選手の中から選考する。
- b. 年間チャンピオン及び国別ランキングトップを目標とし、各大会で日本代表選手団を選考する。

#### ② 派遣可能選手(IFSC ルールより抜粋)

- a. その年の1月1日時点での成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**（優勝種目で登録のこと）を派遣することができる。
- b. その年の1月1日時点での出場種目の世界ランキングが10位以内の選手を派遣することができる。
- c. 日本以外での大会が開催される場合は、各種目の各カテゴリーにおいて各国で**最大6名**までの選手を派遣することができる。

#### ③ 選考大会

- a. リード日本選手権大会及びリードジャパンカップ
- b. 直近の世界選手権（世界選手権・世界ユース選手権）
- c. 直近の大陸別選手権（アジア選手権・アジアユース選手権）

#### ④ 選考基準

- a. 基本的には全ての選手（IFSC 枠保持選手も含む）の選考を国内選考大会の結果をもとに行う。ただし、特別な理由（ワールドカップ等の上位大会、やむを得ない事由）があり、国内選考大会へ参加できない場合はその限りではない。
- b. その年の1月1日時点での成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の**優勝者**（優勝種目で登録のこと）をIFSC枠保持選手として選考する。
- c. その年の1月1日時点での出場種目の世界ランキングが10位以内の選手を「**S代表**」として選考する。
- d. 前年のリードワールドカップにおいて決勝に進出した選手を「**A代表**」として選考する。

※2017年からは2回以上決勝に進出した選手とする方針である。

- e. リード日本選手権においてS・A代表及びIFSC枠保持者、16歳未満の選手を除いた**上位6名**の成績を収めた選手をワールドカップ **Briancon** 大会までの「**B代表**」とし、上位の成績者から優先的に選考する。
- f. リードジャパンカップにおいて、S・A・B代表及びIFSC枠保持者、16歳未満の選手、**Briancon** 大会までの「**B代表**」を除いた選手から、リードジャパンカップより**上位6名**の成績を収めた選手を選考する。
- g. リード日本選手権、リードジャパンカップそれぞれの**上位6名**（12名）を**アジア選手権**以降の「**B代表**」とする。
- h. **Briancon** 大会までの参加枠が空いていた場合は、リードジャパンカップより選出のB代表上位の成績者から優先順に参加することができる。
- i. 競技会の開催年に16歳に達している、もしくは年内に達する選手から選考する。
- j. 将来オリンピックで活躍が期待できる選手を複数の種目で世界大会を経験させるために選手強化委員会から推薦する選手を選考することができる。ただし、1大会において**最大1名**とし、1シーズンにおいて**最大2大会**まで適用することができる。
- k. IFSC 枠保持選手、S代表、A代表、B代表の選手を2016年リード日本代表選手とする。
- l. IFSC 保持選手の扱いは、選手方針、選考基準（上記a.b.c.d.e.f.g.h.i）に照らし合わせたのちに決定する。

※選考大会の成績が選考方針・選考基準（準決勝進出以上）を満たしていない場合は代表としての選考を行わない可能性がある。

⑤ 選考方法

- a. 選考基準を満たしている選手を、選考方針及び派遣選手団の編成方針に従って選手強化委員会で協議し、各大会において日本代表選手団の選考を行う。
- b. 各大会への参加は、S・A代表はすべての参加を認め、残った参加枠はB代表から参加者を募り、成績上位者から優先順に決定する。つまり、A代表とB代表を合わせ各大会において男女 **最大6名**の選手を選考する。
- c. 選手強化委員会からの推薦選手1名を参加させる場合は、A代表に次いで優先的に大会参加させる。

⑥ 決定時期

リード日本選手権大会の終了後及びリードジャパンカップの終了後。

4 その他

- a. IFSC ルールが変更した場合には、選手選考基準も準じて改定を行う。
- b. 選考大会のスケジュール等に変更があった場合は、状況に応じた選考を行う。

〈別紙〉 参考資料

平成28年1月1日現在

## 2016年 I F S C 枠保持 及び S・A 代表候補選手等 一覧

- 1 I F S C 枠保持による候補選手  
是永敬一郎（アジア選手権）  
清水裕登・大場美和・田中修太・西田朱季（アジアユース選手権）
  
- 2 S 代表候補選手  
男子 中野稔  
女子 小林由佳、大田理娑
  
- 3 A 代表候補選手  
男子 樋口純裕  
女子 尾上彩
  
- 4 I F S C リードワールドカップにおけるオリンピック特別枠への候補選手
  - (1) 他種目のS代表候補者であること。
  - (2) 他種目の国内選考大会において優勝した者であること。
  - (3) 直近の成年またはユースの世界選手権または大陸別選手権の優勝者であること。